



地域ボランティア プログラム プレ企画 【タケノコ掘り】報告

April 9, 24

親子でタケノコ掘り in 首都大・松木日向緑地

4月9日(土)・24日(日)に、本学の松木日向緑地にて、今年度から実施する「地域ボランティアプログラム」のプレ企画として、タケノコ掘りを実施しました。この企画は、ひなた緑地遊学会(以下、遊学会と言う)と連携し、近隣の小学校の親子とともに行いました。また、本学からも計6名の学生が参加してくれました。

4月9日(土)

この日は、快晴の空の下、柏木小学校の親子約80人と本学の大学生ボランティア及び教職員、遊学会の方も含めて、総勢100人程のイベントとなりました。その人数でも掘り切れないほど今年はタケノコの大豊作。注意事項の説明があった後、2箇所に分かれてタケノコを掘り始めました。少しだけ頭を出しているタケノコを探し出すのは難しい…と思いきや、大人よりも小学生の方が割と上手に見つけていました。しかし、掘りだすのは至難の業。タケノコの周りには根茎があり、1つを掘るのに30分ぐらいの時間がかかり、汗だくになりました。遊学会の皆さんに教えていただきながら、大学生ボランティアも小学生がタケノコを掘るサポートをしました。昼食は柏木小学校の父母の方がつくってくださったタケノコご飯をみんなで食べました。汗を流した後、青空の下で食べるご飯は格別。また、苦勞して掘ったタケノコだけに、自然の恵みに感謝しながら、おいしくいただきました。

最後には、各学年の代表者と大学生ボランティアが感想を述べ、想いを共有しました。大学生からは、体験の感想に加え、里山に対する理解の深まりや、キャンパスを活かした地域交流の大切さについての感想も聞かれました。

4月24日(日)

この日は朝から雨。残念ながら南大沢小学校の生徒たちは危険が伴うため中止となりましたが、大学生はすでに集まっていたため、大学生のみで

実施しました。9時ごろには止むとの予報でしたが、しばらく雨脚が遠のく気配がなかったため、本学生命科学コースの教員であり、松木日向緑地の保全を行う「ひなたクラブ」を運営されている加藤英寿先生に里山についての講義をしていただきました。講義では、本学の里山「松木日向緑地」にどれほど多くの生命が生きているのか、その生命が竹林の放置によっていかに危険な状態に置かれているかを非常にわかりやすく教えていただきました。タケノコ掘りは、単に里山から恵みをいただくだけでなく、竹の拡大を防ぐ意味合いもあったのだと感じ、大学生たちは一層タケノコ掘りへのモチベーションが高まったようです。

その後、雨が上がり、待ちに待ったタケノコ掘りを開始しました。タケノコが成長して竹になっているものもあり、9日に参加した学生は、「たった2週間でこんなに成長するんだ!」と、とても驚いていました。実際、1日に1メートル程伸びる場合もあるそうです。

タケノコ掘りの後は、竹の伐採も体験しました。ただ切り落として終わり、ではなく、幹から生えている枝も切り落とす必要があることを教えていただきました。

タケノコを掘り終えて

掘ったタケノコは、みんなで分けて持ち帰りました。大学生たちも下処理は初めての人が多く、家族に聞いたり調べたりして、タケノコご飯や若竹煮、焼きタケノコなど、それぞれのメニューで美味しくいただきました。普段何気なく過ごしているこの大学から、こうした豊かな恵みがいただけることは非常に驚きでした。また、この企画を通して、いろいろな方の松木日向緑地への想いと取組みとを知ることができ、その豊かな恵みが、自然によってのみでなく、それを大切に想う人たちによって培われたものであると感じた1日でした。



里山についての説明

24日はあいにくの雨。雨が止むまで、本学の生命科学コースの教員である加藤英寿先生に、里山や竹についてレクチャーしていただきました。



遊学会の方と小学生と親御さん

タケノコ掘りの指導をしていただいたのは、いつも松木日向緑地の保全活動をして下さっている「ひなた緑地遊学会」の皆さん。写真は、柏木小学校から参加してくれた子どもたちとその父母の皆さん、本学の学生に指導して下さっている様子。